

10・15回出場選手を表彰

日頃の練習の成果が実を結び、今大会で10・15回の出場を果たし、表彰の栄に輝いた選手の皆さんを紹介します。また、選手の皆さんに感想を伺うと、「これからも練習をかさね頑張っていきたい。」と語ってくれました。

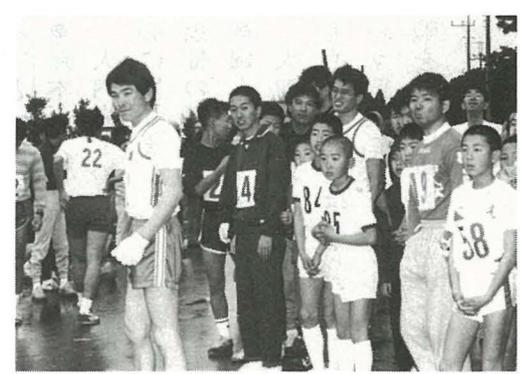
15回出場選手(敬称略)



芝崎 宇井正敏      二又 布施廣志      原方 鵜澤政幸      原方 鵜澤 巖



白磯 向後英統      白磯 川野昌久      白磯 鵜之澤常吉      入 川島敏彦      宝米 土屋高宏      宝米 土屋英夫



自チームの選手を見守る(第1中継所)

駅伝大会の経過

第1回大会は、「建国記念の日」の祝賀の意味をもって、昭和43年2月10日に行われました。

コースは、役場(スタート)——富下倉庫——篠本二区公民館(折り返し)——役場——関十字路(折り返し)——役場(ゴール)という全長26・

4 km、8区間で行われました。また、参加チームは11チーム(一般7・中学生4)で総合優勝は、中学生陸上Aチームでした。その後、昭和50年以降は現在のコースに変更行われています。



走れる限り参加したい

実川 通(辻)



私は毎年、大会の2ヶ月前から練習を始めています。今年は、私が勤めから帰ると、中学校陸上部の長距離をしている2年の娘が、

「お父さん、今日と一緒に走ろう。」と、声をかけてきました。一緒に走ることによって、親子のコミュニケーションを持つことが出来ました。

今年は、一般28チームが参加。我が辻チームは2チームが参加し、Aチームが4位、Bチームが20位でした。

私はAチームの第2区(3 km)を走りました。第1区の走者からタスキを受け、2 km位過ぎたところから、疲れと風のために足が前に出なくなってきたのです。その時、沿道

で応援している人達からの「ガンバレ!」の一声に力づけられ、タスキを第3区の走者に渡すことができました。

私は、今年40才を迎えますが、駅伝大会には17回出場しました。今後も、健康に留意して、走れる限り参加したいと思っています。